



內外新聞 第四

知新館

慶應四年戊辰五月八日



西垣文庫
文庫 10
7348
4



持 文庫10
7348
4



神戸新聞ノ譯

○先頃米國帆前商船デスハツチ各船主ジヨンス各人

ト日本運上所船改ノ士官共トノ際ニ起リシ事件ニ付

先月廿九日裁断アリシ訳ハ過日出版セシ新聞紙上ニ

告知セリ

船改士官共免状魚キ荷物ヲ取押ヘルタメニコンシユル

外國商正ノ官各へ届ケズシテ彼ノデスハツチ船へ押テ行シコトハ

米國國旗ノ對シ不敬ニ當ルト云フヲ米國コンシユル

ノ云立シニヨリ奉行ノ論ヲ以テ右ノ士官共

西垣文庫

ヲデスハツチ船へ差越タリ
右ノ如キ事件ハ西洋文明各國ニ於テハ甚ダ不法ノ事
ニテ有ルトツ

然ルニ船主ジヨンスヨリ兼テ申立シ同人配下ノ乗組水主
等ノ損失償金トシテ洋銀三万枚ヲ請取ント望ミシ
ハ右裁判ノ時ニハ如何ノ所置ニ相ナリシヤ更ニ知レズレ
此償金儀ニ付テハ横濱裁判所ニ於テ如何所置アル
ベクヤ計リ難シトイヘ和聖東地府ノ裁断所ニ皈リテ
申立トイヘ又如何トモ成リ難キ事ナリ

○太政御一新ノ後ハ徳川御征討ノ事ニ付テハ種々ノ
珍事多シ此事ハ度々我等カ會合ノ時ニ當ツテ一奇
話トモナルベシ

○過月ヨリノ政事ハ惣テ國中ヲ利スルノ外ハ他事ナ
ク日本ヲシテ西東洋大東洋大西洋ノ各國ト推テ等々
ル事ノ存念ナリ且ツ國民ヲ開化セシメ能ク外國ノ事
情ヲ知ラシメ我等初メテ日本へ来リシ時ヨリノ旧
弊ヲ改革セントノ企
○過日ヨリ交際ノ一ニ至テハ我が英國ニ深切ヲ尽ス

而巴ナラス且各國ニモ益信情ヲ以テ交レリ

○當日二日 我閏四月十一日 西洋第六月二日 ヘルマン船ノ到着ニヨツテ或ル新

聞ヲ得タリ此事イヨク實ナラバ我々カ願ヒノ如ク成
ルベシ

譯者云此ノ事件イマタ詳カナラズ後日的然ノ新聞ヲ
得ルアアラハ其子細ヲ告知スベシ

○先月中浪士二人市中ニ潜伏シ居ル由諸藩邸へ布告アリ
此者共ハ旧幕府ニテ身柄ノ者ニテ有シカ今零落スル
トイヘモ萬一諸侯へ對シ遺恨ヲ嗜スマシキモノニモアラス

因茲本月第一日 我至四月十日 洋第六月一日 居苗地外国人ヨリ入口毎ニ警言

固番所ヲ建テ無用ノ者ハ一切ニ入ルコトナラス夫故而三日ハ遊參見物人等是迄ノ様ニ来ルコトヲ得ザリシ

此警言固ノ番所ヲ建シ事日本人ハ諸人ヲ攘リニ入レヌ
為ナリト云ヘ凡我々英ノ推考ニテハ右ノ浪士ヲ防グ為

ニ設ケシモノナラン諸人ヲ攘リニ入レヌ為ナラハ番所毎ニ
番人一個ツ、ニテ十分ナルベシ

譯者按ズルニ此二人ノ浪士ト云ハ水戸脱走ノ内鈴木
朝比奈等ヲ探索ノ布令ナルベシ外國人ハ先年品

川東漸寺ノ變更ナトヲ思ヒ出テ斯ク云ナラン

○本月當月ト云第二日ノ事ニテ有シ士一人居苗地キヨリウチニ徘徊

セシ或外國人ニ突當リ直ニ腰刀ヲ拔掛タリ外國人モ

短銃ヲ出シ規ヒシカバ士ハ逃去タリ外國人モ發獲ニハ

及バス跡ヲ追テ間近キ番所ニ至リ此次第ヲ報知セリ銃

二三間距離ノ處ニテ起リシ更ナレバ番人共ハ一向知ラザ

リシ如此更出来セハ已後ハ西洋人短銃ヲ持タズニテ外出

ハ決シテナスマジニ三度モ皮様ノ士ヲ打留タラバ少ニハ止ム

トモアラシム

兵庫新聞

○アデイリヤン各商社ノ蒸氣船ラーサカ御開四月廿

四日午前十一字西洋時刻末港セリ此船ハ肥前侯鍋

より雇ひよちり士官等兵卒凡五百人計乗組し

迫横濱へ出帆の由

大坂之新聞

○此度

朝廷に於て浪花丸との沖松出来せしもの第二編

を布告せし如く江戸通好の便利と爲すに沖松下

黄	青
白	
黒	赤

如图み色なり
 日本全國の人知すんばりど
 かりけの事なり

○大坂生玉の社地は真言宗の寺十坊ありしに五月二
 日急ぎ退く振被 仰付即日佛具手道具亦引取ひ
 疊建具は其儘に控置立去りし由く
 此事件は今般濟一新く折柄高野山に僧侶
 朝命と彼是とヤ述に依り被宗徒の云くたけ通りと

たりしに其耳也

○南都興福寺は是とい寺中三十坊ありしに二万石斗
 の寺領をとりてけ度一坊に十石とをとりて都合
 三百石と減せられし由也

○岡四月下旬よりの霖雨より淀川筋殊に外の満水
 りて五月朔日より当地より上京の船三四艘も後まがり
 其内一艘の船子を人幸らじと助り糸ハ尽く溺死せる
 由外の二艘も糸継し人の多分助りしと耳也
 ○厄ヶ崎より大坂の通船一艘を引り日根出水の為ニ覆る

余程死人ありと云

洋行せし一經業師寅吉の風聞

○早行寅吉事ハ昨丁卯年外國人ニ雇ヒ家族大勢
ト連テ横濱ト出帆一追々各國ト廻リ同年の暮頃ト
亞國サンフランスコ地へ迄一夫しより他の國へ渡らんとする
時元方初ノ寅吉を雇ひの外人の曰く家族大勢なる故
雜費少くは只兩三人ト連シテ余ハ日本へ送り返さん
ト寅吉善ク之ヲ允素奉ふに於テ家族等々一列連シ
約ト定ム今更約ト變じらるる事當面懸念する所なり

ハ返着又依く外人も然し居らるるが事にて出帆
の時いかに仕とるや寅吉及び要用人而已と叙せ
余ハ其後殘し置し洋中へ出らるる寅吉この事と
知り大不憤に刀と拔て彼の偽りし外國人と切害せんと
働きしハ是れ者又船中發動し他の乗組恐怖する故
船主も迷惑の余り又寅吉及び元方の外人ありとも
或ル島へ上陸せしめ船ハ遙く過行しうと其後寅吉
の生死等と未知他日そそ候候と傳ハ布告せし
○肥前長崎四ノキリシタレの宗門ニ歸依せし者共九

二子入系石捕られ諸藩へ分配して御領ヶさす由
五月朔日の頃大坂と列々との軍へ至り又此事に
就く外小園より扱ひと入至るに税あり

京都く新聞

○京都裁判所事 京都府と改めお成

京都府 府知事 長谷宰相

判 事 青山小三郎

判 事 松田正人

○丹波山家谷大根免京急交いなる事よりい前洛西

西院村は移く屋敷と得らるにたす

○根張地黄の類は能勢日向守も柳三橋後小治の事
急交と急達らるの支度あり

○国月下旬よりの大雨にて桂川出水所へ揚る砂流下
りて浸伏見の町も押水来りて舟を以て沈ませり
け霖雨のためと妻並木撞名泥水と印りて悉く芽を吹
んとと依之農人等大に憂悲せり

又島丸姉小路の人家裏町の地形低き故に地境こさ
き間斗り石垣を築上り
三系よりわく島丸表裏所の
地境より低めりなり表毎に同じき上り

去茲を遠わたりぬけ荒の大雨にて石垣崩れ去る忍
ち倒れ裏町の地底より一小家を押し潰せり幸ひ
して換傷の人を無うけると我人々の家作短おと
公と付べき事なる依り固く布告せり云々

○去二月廿日大和太孫世人繩よの丑にて外圍入参

朝の時英人又對一及傷及及び一林田貞賢り遺骸を
洛不寺を卷寺の南なる伽藍親善といふ寺に埋葬あり
劫敵有志の者ハけ寺に玉を死を供し水をも向るも
一がけ荒れ玉り日水の東なる美山に改葬する由に

船橋長戦争の新聞

○田四月二日の曉下総中山八幡に屯集せし城兵の
孫堂儀前須卒の二子一器越と後一掃澤とを首と
連り其を共々襲撃も知らずをんがふさよ戦争も
と乍候の人殺り荒和藩の宿陣所西園回向院へ報知あり
依之同所より総督府達へ密偵先鋒百余人を繰出
し杉徳又長陣と後陣も続々出陣して是又百人余り
行徳川を隔て新野村に陣とあり一隊軍船路を回して
江戸表丸入るるものありんと迎迎の村を探索し

を成し兵糧を食ひたり此時此處より砲丸を遣はりて
既先手戦事及ぶる筑前兵隊の先手村を襲ひ行
徳より薩兵勢と一にこたへて八幡中山より進軍せり
薩兵の中山より引返し村を吟味して軍を進
む筑前の兵隊は未だ中刻辰時宿に宿陣せり
佐去原の兵隊筑前の先手の平野戦事終りたるは
三と一同に辰時宿に宿陣せり

此日先手の戦事小迫合なり筑前の先手小督より
押行し如城兵を遣はり突出し敵合計十石内外その

砲丸を打ち放ち筑前兵の野戦砲二發打出し大門と丸井
二門とも打控置小銃とりつゝ敵味方とも散兵と成て
迫合より筑前兵の討死銃士五人小者三人負九人
城兵の佐倉街道大和田宿より方山より引返しつり
け日官軍への討死は五十八人あり未だ懋成を
聖四日薩兵勢佐土原督小人救く本更津の方へ兵
を出し筑前督も救援の命を交はる故に流れて進軍せ
ざる時の先鋒の二藩を打殺したる報をきりて筑前藩
の孤軍人に塞ぐべしと兵衆大に憤發するは中官

河守衛の命と誓てしる故探り小進を能くし、
之と縁し一ト先兵隊と引纏め申す刻に至り、
引揚其旨と進進し及び同所、
令とほくし、後の河下知待をりしとや
野に常夜、通し船以の動と軍て下総の地
田四月四日の日付して系於小杉系系本村に字
八幡宿、出張し官軍稲田藩より、
後如くも、方々外へおれ百人半り三ヶ所、
集りし東軍を各格と津系、
武蔵の地へお渡りし、

イヤと申知る破法をかりし根子也、
より八幡陣中、切の市川、
者く夫と一た、大合戦、
て散く小逃去り、
焼失波し、大砲四挺、
分るらし、
百人焼死、
外ハ江戸内海と船を、
仇倉候の人数、
イヤと申知る破法をかりし根子也、
より八幡陣中、切の市川、
者く夫と一た、大合戦、
て散く小逃去り、
焼失波し、大砲四挺、
分るらし、
百人焼死、
外ハ江戸内海と船を、
仇倉候の人数、

詰園つぎの而この色いろあはれ金伴かねばん東方とうほう古民徳川氏こじんとくがわうぢ二百にひゃく年ねんの活澤かつさくと甘あまく
ト々とと旧幕きゅうまくた祖そ偏倚へんぎの情態じやうたいより出いる書面しやうめん及およ同どう一二いちにの事ことより
有ある事こと六信むくしんどかきる事こと也なり加か之の作しや余あま廣ひろく東京とうきやう加かがせし
の事こと或ある又また紙し方かた修しゆ計けいの流りゆう言げんあり事こと多おほく今いま據とらへて記しす所の
園いん小せう金きん徳とく考かうのこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
くわんせうきんとくかうのこともあはれしことも不續者幸たむる事なり

江戸表田四月七日出く書状中抜出

一 兼文かねふみ通とほじ間まより市川行徳八幡いちがわゆきとくはちまん田でん一いつ戦せん争そう連れん日にち励れき
刻とき江戸より僅わずか四よ五ご里り位ばい一いつ里り程ほど左ひだり邊へに地ち表あはれおる事ことなり
分ぶん下した総そうの方かた角かく天てん色しき赤あかくこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
分下総の方角天色赤くもあはれしことも不續者幸たむる事なり

村むらに焚くわく焼やく失しつ法ぽうしこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
一 當地ちやうち浪なみ人ひと九く十じゅう五ご百ひゃく人にん餘あまりこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
とこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
二 千人せんにん餘あまりこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
とこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
何なにも思おも入い活かつ中ちゆうに事ことなり
何も思入活中に事なり

一 江戸表えどあはる友軍ゆうぐん目め下した総そう地ちに練れん出でしこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
五 人民じんみんの却かへり江戸えどに逃にげ来きりこともあはれしことも不ふ續ぞく者しや幸さいたむる事ことなり
發はつ安あん心しんより成な思おも入い中ちゆうに事ことなり
發安心より成思入中に事なり

又一通江表日十日出之申拔書

一上野官様之事一未九日急御發與江表系此州出
 之在御領分百姓止之七公款七公義七公等七公二十又已之
 面シテ一同執事之存出止上野也其不中及凡江戸中
 町方口振款款之書次山一由今今日下町一同
 口振款款之由右三付之由分延引延引之由成之由
 之由之京師之留之役岩井左衛門出立之由成是之
 之由系之延引故之由中を之由し之
 一江津江津金津金津軍艦軍艦之由之由城借之由交之由之由民民決判決判之由

と申す去六日同所より早稲三挺江戸へ来り申す
 之由甲府之江津、系之由より江戸へ来り申す早打之由
 之由之由之由之由之由

一江項承り之由會津之由小田原、急合決判之由上箱根所
 國所國所交之由成性未絶切之由
 一在通入久保家之由去六日申す之由成之由
 一去七日回幕旗本之由之由之由之由之由之由
 一昨日由御町之由之由之由之由之由之由
 一右の由十八日之由之由之由之由之由之由之由

こつ果と

論者曰上野官の河内系と江差止リ然ゆらつこの
情態或ハ実多き人浪津軍艦上り城借り情と
及ハ小田原、決判箱根往來絶切と令々虚脱を
會城とのさめがけ不條理の極勢の故と云うは
信託を以て東海樞要の衝道三日とせざれば
狼京師の達をばり且今津未と軍艦を持しと
ふや旧幕府のこれを借り交しをもるべきに日
中ハ大ニ法解なり旧幕長何ぞがけ形勢わらん

油掛町予等未と町名も及ばぬ或ハ誤りなきは
紙々文何ぞ不束なる蓋一実多きをば格々
者の不為固より多様の説をうし一要々浪津に
の救済何ぞも憑虚の説安そ信をうらんや

○旧幕府脱走人其奈浮浪後録波地市所又屯集
在り官軍をお拒むる分因四月廿六日夜半長州
孫系分加州出陣監軍は明廿七日曉人数録出方示候

あり初廿七日早天加州勢と高田勢と引纏ひ加所
隊長水上隊隊長長富隊長枚本隊副小隊
隊長波よりとあまき丁斗と度中を繰出と炮發及及
浪人方も奮戦双方発炮効益短程加及勢もと
と内務長勢が繰波を焼打致し款四又丁斗引退キ
官軍熱勢透るお進み頻りに及攻撃と度款
の山は續キ松原の切お潜伏し大小炮打立し舟加所勢
堀官衛隊打進て彼山の下の小高と所積部は掃り
小銃者打立し舟浮浪輩在松原の切お保し

ふの於去りて彼の山を截り放逐と加州海軍と序
吹立追々山に進み水も隊も漲りし
おどり大砲等打立お進み産長及ひ高田勢も亦
進撃し想官軍勝利出所しと繰込とてお成
打立と賊首級殺さしれと未だ越えおれ官軍も
も自亦多きれと何事も格別な事なれも無し
板加州の兼る指弱の世評もわじし今殺初め戦事
は兵士の進退取散各其別とゆき大勝利の天候城
手際を更し人目を驚かすなり其破一藩前後の所

雪ぐよ是きうとふ

猶内外の新軍と紀さんと歎とれた出板の終日あまげん第五

ま布告とぶー

因三日先殺發行せし新聞の第一を見そく粗濁のこのあり
絶板しともよあぶる物と辨解ある由なり是れ所謂原を逐てハ
編師山と見しとる謗等しく新聞の報ずる所以を
知らざる偏頗の端なり粗濁を厭ふは新聞の要務なり
先づその向後とも粗濁杜撰の事件をさるる能はる
るし是等の激たる事ハ知識の尤めざる所なり故に
集者も又敢るを止めんと

知新館告文

此社中ニ於テハ珍貴並ニ諸相庭物等ヲ記スノ本意ナリ
又館外ノ人タリハ功能アル事ヲ衆人ニ示サンカ或ハ書
籍等ヲ彫刻セント欲セラル、片ハ此社中へ御示談ア
ラハ速カニ廣ク海内ニ布告スベキ者ナリ

浪華



知新館

大坂心齋橋本町北入 河内屋忠七
同 北久太郎町四丁ノ 河内屋清七
京都四条河原町西入 山城屋勘助

弘通所

同	同	同	同	同	同	同
寺町姉小路上	富小路四条上	三条寺町西入	御幸町姉小路上	京都三条御幸町角	北久太郎町四丁	大坂心齋橋北久太郎町
錢屋惣四郎	丁子屋榮助	吉野屋甚助	菱屋孫兵衛	吉野屋仁兵衛	河内屋新次郎	河内屋喜兵衛